

平成27年度 広報について

① 新規利用団体の獲得に向けて

今年度は岩手県内の高等学校 17 校を直接訪問し、勉強合宿・部活動等での利用について広報活動を行った。また、滝沢市校長会において、各校の校長等に対して、当施設の利用説明会を行った他、盛岡市PTA連合会等において、「体験の風をおこそう」運動と併せ当施設のPR等を行っている。

② 近隣の自治体等との連携について

滝沢市の「産業まつり」、岩手産業文化センター（アピオ）で開催された「IBCまつり」、釜石市で開催された「しぜんとあそび in 釜石あそび」の広場に於いて当施設の体験ブースを出店し、施設のPR活動を行うとともに、「早ね早おき朝ごはん」の顔出しパネルをブース横に設置し、同運動の普及・啓発を行った。

→両イベント共に当施設のブースに多数の方に訪れていただくことができた。「体験の風をおこそう」運動等や、当施設のPRにも大いに役立った。

③ 公立の社会教育施設との連携について

岩手県立県北青少年の家で開催された「ステラパルまつり」及び岩手県内の県立3施設合同で開催された「親子でチャレンジ」に出展し、当施設の広報を行った。

→当日はそれぞれ多くの親子連れに当施設のブースを訪れていただくことができ、所期の目的を達成することができたと考える。今後も近隣の社会教育施設と事業運営等を通じて相互に連携を深めていく予定である。

④ テレビコマーシャルによる広報

IBC岩手放送において、「体験の風をおこそう」運動のPRと、国立岩手山交流の家と岩手県立青少年交流の家3施設の、テレビコマーシャルを2週間にわたり放映した。

→テレビコマーシャルの放映により、「体験の風をおこそう」運動と岩手県内の青少年教育施設の認知度が大いに向上した。

⑤ 滝沢市との連携により、四半期ごとに滝沢市の広報に合わせて当所のニュースレターを全世帯（約22,000世帯）に配布している。

→幅広い住民に対して、より身近な施設として交流の家を認識していただくことができ、イベントの集客にも効果があった。

⑥ みちのく「体験の風をおこそう」運動推進協議会と連携し、青森・岩手・宮城・秋田県の主要公民館や青少年教育関係団体（32施設・団体）を直接訪問し、広報を行った。

また、青森県青森市・弘前市、岩手県盛岡市・宮古市、秋田県秋田市で行った「子どもゆめ基金説明会」においても交流の利用についての広報を行った。

→各県の公民館・青少年教育関係団体から、改めて当交流の家の取組みについて認識していただくことができた。